

禅^{ぜん}智^ち内^{ない}供^ぐは、長^{なが}い鼻^{はな}を持^もって

いました。その鼻^{はな}は、五^ご六^{ろく}寸^{すん}も

あつて、口^{くち}の上^{うえ}からあごの下^{した}ま

で垂^たれさがっていました。

ある日^ひ、内^{ない}供^ぐはどうしてもこの

鼻^{はな}を短^{みじか}くしたくなりました。

「人^{ひと}に笑^{わら}われるのは、もうたく

さんだ。」

芥^{あく}川^{たが}龍^{わり}之^{ゆう}介^{のすけ}

「鼻^{はな}」より